

お客さまへのメッセージ

執行役員
野田 清文 (S I & サービス担当)

新しいステージに向かって

最近、「十数年前にお仕事をいただいたお客さまから連絡をいただき、またご一緒させていただく機会を得て、感謝！」と言った話を社内でよく耳にします。その時々新しい技術を駆使して、お客さまの成功への貢献をひたすら目指したことが繋がったと思っています。



企業を取り巻く経営環境はお客さまニーズや価値観の多様化、グローバル化の進展など激しく変化しており、こうした変化に柔軟に対応し生き抜くために、新たな商品・サービスの開発・提供や、新分野への進出といった取組みが求められています。このような時代に、弊社では2～3年前から従来型のS I開発に甘んじることなく、強みや技術を活かした事業へのシフトに向け準備を行っています。特にソリューション分野では、①地域連携・活性化に注力した商材として作業員の体調管理など健康ソリューションの企画・開発、②調達管理ソリューションなど、過去の資産を効率よく高品質なS Iコアという形にして提供する商材の整備、③技術・ノウハウをパッケージ化した新ビジネスの企画等に取り組んでいます。

また、インフラ分野ではお客さまの関心事に素早く応えるべく、昨年はセキュリティ関連等をお客さまにお届けする活動を進めてまいりましたが、今年度はさらに関心の高いクラウド、BCP、IoTなどに関してもこれまでのノウハウをお届けする準備を進めています。最新のITトレンド等をこの紙面でも一部ご紹介させていただいていますが、これも時代の変化に柔軟に対応し、先進的な技術を用いた弊社の取組みをご紹介します。

弊社はお陰さまで来年創立・創業50周年を迎えます。冒頭に述べたお客さまからのお声掛けは、「これまでのお付き合い」だけでいただけるものではなく、新たな技術を学び、より良いサービスやシステムの追及を続けてこそいただけるものと考えています。弊社の商品・サービスがお客さまのニーズや時代に合っているか、新しいビジネスへの取組みを常に考え、行動しているかを社員全員で日々自問自答しながら、誇りある創業50周年、新しいステージに向かって、努力を続けていきたいと思えます。お客さまや地域に貢献できる会社を目指してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

10/17
開催

ソルネット主催セミナー 開催のお知らせ

ビジネスに活かす!! IoTセミナー

日常的に「IoT」という言葉を目にする機会が増えてきました。ビジネスや日常生活を大きく変えていくといわれていますが、実際の業務の現場にどのように取入れ、活用できるのか、正直今ひとつピンと来ないという方もまだまだたくさんいらっしゃいます。

弊社では、そんな皆さまの声にお応えするため、最新トレンドから実際の業務で使えるソリューションのご紹介まで、さまざまな視点からIoTについてご理解いただける無料セミナーを開催することにしました。

IOT活用をご検討中の経営者さまや、現場の課題を抱えるご担当者さま、この機会にぜひ「**ビジネス変革のヒント**」を見つけにお越しください。ご来場をお待ちしています。

日時・場所

日時：2016年10月17日（月） 開演 13:30（開場 13:00）

場所：北九州国際会議場 32会議室

（北九州市小倉北区浅野三丁目8-1）

セッション

第一部：「Watson IoT Platformによるビジネス価値の創出

：Fail-fast、または計画的な冒険」

日本アイ・ビー・エム株式会社 Watson IoT事業部

IoT Technical Lead 鈴木 徹氏

第二部：「Pepperと語るIoTの「(近)未来予想図」」

J Bグループ / J B A T 先進技術研究所

所長 浜口 昌也 & Pepper

第三部：IoTを活用したモバイルシステムソリューション

ソルネット ビジネス企画推進

チーフアーキテクト 岡原 信行

※ セミナー詳細、お申し込み等につきましては、近日中に担当営業、もしくは弊社ホームページにてお知らせいたします。

※ 「Pepper」は、ソフトバンクロボティクス株式会社の商標です

センサー活用による体調管理システム

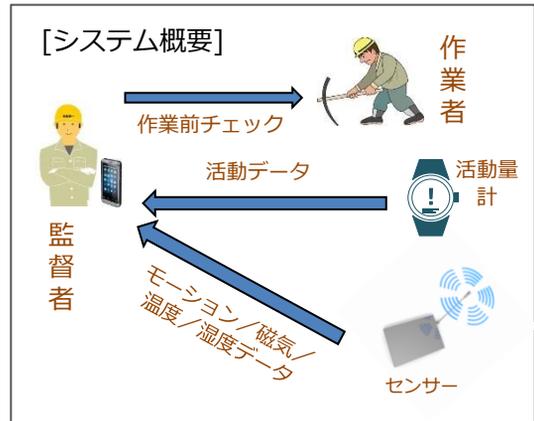
I o Tの時代となり、以前よりも低価格で省電力、小型化したセンサーが数多く提供され、ビジネスのさまざまな場面で活用しやすくなりました。

今回弊社では、ひとつのデバイスで豊富な種類のデータを計測できる開発者用センサーを採用し、ウェアラブル活動量計と組み合わせて、リアルタイムに作業者の体調を把握できるシステムを、実証実験として構築しました。

今回の開発基盤には、

- お客さまの初期コストを抑えられる
- 弊社の実績で、品質・機能ともに十分な成果が実証されている

のメリットから、開発フレームワークであるCordovaを始め、幾つかのオープンソースを採用しています。



私自身、モバイルアプリ開発は何度も経験してきましたが、モーション、磁気、温度、湿度センサーとの組み合わせは初めてでしたので、接続仕様の理解、組み込み方法の調査から始めました。アプリケーションの基本構造は既存知識で容易に対応できましたので、センサー部分の調査に集中して時間を割くことができ、結果的に短期間で開発することができました。

<p>■ 作業員Cさんの状態（めまい・発汗など）を確認してください。</p>	<p>・体調チェック</p>
<p>作業員Aさん 正常</p> <p>心拍 : 91 WBGT: 25 動作 : ↓ 年齢 : 20 歩数 : 163 Cal : 330</p>	<p>チェック項目</p> <p>前日に過度な飲酒をしていませんか? <input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×</p> <p>睡眠は十分ですか? <input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×</p> <p>朝食は食べましたか? <input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×</p> <p>水分の補給はしましたか? <input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×</p> <p>発熱は無いですか? <input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×</p> <p>身体のだるさは無いですか? <input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×</p> <p>胃腸の具合は悪くないですか? <input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×</p>
<p>作業員Bさん 正常</p> <p>心拍 : 93 WBGT: 28 動作 : ↑ 年齢 : 45 歩数 : 168 Cal : 330</p>	
<p>作業員Cさん 注意</p> <p>心拍 : 192 WBGT: 28 動作 : ↓ 年齢 : 55 歩数 : 149 Cal : 400</p>	

システム画面の一例

このように新しい技術・弊社の開発実績を活用して作成したアプリケーションで、安心して働ける環境が作れたら、開発者として大変喜ばしいことです。

また今回は、機器連携にBluetoothを利用したため、狭い範囲でしか使用できませんが、将来的には、クラウドと組み合わせで広範囲な環境で利用可能にし、さまざまなシステムやI o T機器と連携させ、さらに、蓄積した情報でAIを活用するなどの展開をしていきたいと思っています。

今回の研究事例を弊社ソリューション開発の礎のひとつとし、地域の人びとに安全・安心・効率をテーマとした、より良いシステムをお届けしていきます。

(営業統括 地理情報ソリューション部 佐々木 健二)

お客さまの身近で迅速・柔軟なサポートを！

ご安全に！ 私たちのチームは、新日鉄住金ソリューションズ(株)さまの保守メンバーの一員として、新日鉄住金(株)八幡製鐵所さま構内に常駐しており、パートナー3名を含めた6名で、「エニーアンサーライン」と「サーバ運用・保守」業務をそれぞれ担当しています。

「エニーアンサーライン」では、電話やメールだけでなく、ユーザーさまのご利用現場に駆けつけて対応を行う、“いつでも・どこでも・迅速な”ヘルプデスクサポートを行っています。

また、快適にITをご利用できるように、パソコン導入計画・運用管理・廃棄に至るまでのすべてをケアするライフサイクルサポートも実施しています。

「サーバ運用・保守」においては、障害対応や月次メンテナンスのほかにも、サーバ監視、OS・ソフトウェアのアップデート適用・検証などの“予防保守”を行い、システム基盤のセキュアで安定的な稼働に取り組んでいます。

上記以外にも、大規模なPC更新等のプロジェクトでは、技術者の提供や配置変更など人員構成の最適化を行い、現場やシステム部門のお客さまからのご要望に、迅速に・柔軟に対応できるようにしています。

今後は、セキュリティ関連商品やサーバ監視ツールなどの弊社グループ企業の新技術や商材研究を通じて、メンバーのスキルアップを図り、業務に活かしていきたいと考えています。

これからも、お客さまとのコミュニケーションを大切にし、お客さまのご期待に応えていけるよう、チーム一丸となって取り組んでまいります。

(企画・提案グループ 堀江 政宏)



上段左から、堀江、高椋、園田、百田、高山、揖斐

～ メッセージ ～

高椋 芳朗 … お客さまから「ありがとう」の一言を頂けるような仕事を目指します

園田 仁 … お客さまの「困った」を少しでも減らせるよう頑張ります

堀江 政宏 … サーバ運用保守の課題一つ一つに真摯に取り組んでいきます

お知らせ) ホームページにも掲載を始めました!!

システム間を柔軟につなぐ ESB



こんにちは。今回は、最近お問い合わせが増えている「システム間連携」を柔軟に行えるESBについてご紹介します。

■システム連携における課題

企業システムが成長に伴って直面する代表的な課題の1つにシステム間連携があります。ライフサイクルの違う複数システムをどのように連携させるかによって、開発～運用の工程で必ず発生する変化への対応力（柔軟性）が大きく変わってきます。

連携タイミングや方法は特性に応じて様々ですが、統制のない状態で個々に直接連携させていると、システムが硬直化してしまい変更時の影響範囲が拡大したり、「スパゲティ状態」を招き運用が煩雑になってしまいがちです。また、同じデータを各システムで重複保持しており、データ鮮度に課題を抱えるケースも良くお聞きします。このような課題は、システムライフサイクルの短期化やクラウド⇔オンプレ間連携が進んだ時代背景もあいまって、再びクローズアップされてきています。



図1. 個別連携のイメージ

■ESBの概要

ESBとは「Enterprise Service Bus」の略で、システム間を繋ぐためのバス型の仕組みを指し、有償/無償問わず多くの製品が存在しています。厳密な定義はありませんが、代表的な機能として「プロトコル変換」「フォーマット変換」「ルーティング」などがあり、これらを組合わせて連携を実現させます。ESBを仲介させることで他システムとの依存から解放され、変化への柔軟性は飛躍的に高まります。また、統一された基盤上で連携の一元管理が実現でき、システム全体の可視性が高まって、統制のとれた状態になると言えます。

しかし、ESBで必要以上に実装したことで、管理が煩雑になったり、大量データを処理させたためパフォーマンスが運用に耐えられないなど、ESB導入で失敗したケースを耳にすることもあります。製品導入だけではなくESBの特性を活かした設計が成功のカギとなってきます。

■弊社の取り組み

弊社では、10年前からESBを利用したシステム構築に取り組んでおり、地方自治体、不動産業、医薬品製造・販売業など多くの事例があります。近年ではOSS製品もラインナップに取入れ、これまでのノウハウを体系化した支援メニューも準備し、お客さまに合わせたご提案が可能になりました。システム間連携にお悩みの際にはぜひ弊社にお声がけ下さい。



(技術支援グループ 福永 将士)

手から手へ、バトンをつなぐ

オリンピックで熱かった8月も終わりました。たくさんのメダルとたくさんのドラマがありましたが、今回私が一番感動したのは、それぞれの競技を大切に育ててきた「人のつながり」です。

我を忘れ、「がんばれ!!!」と夢中で声援を送る解説者や、先輩のメダルのために全力を尽くす後輩選手たちの意気込み、抱き合っただけで泣き笑いを共にする選手・スタッフの様子に、長い時間をかけて培われた、先輩後輩の強い絆や、競技そのものへの深い愛情を感じました。

私たちにも、大事な先輩方がたくさんいます。弊社OBや、ゆかりの方々です。OBとは言いながらみなさん現役で、北九州のまちや人を元気にするさまざまな活動をパワフルに行っているのだから、今もアドバイスや情報をいただける、とてもありがたい存在です。

そんな先輩方と言葉を交わすと、気持ちもほぐれて懐かしく、みんな笑顔になる一方、少し緊張して、自然と背筋が伸びてしまいます。

私たちは、先輩方が大切に作り上げ、育ててきたソルネットを、ちゃんと発展させていると

いえるのだろうか。お客さまに喜ばれ、地域の方に愛され、社員が元気な「ソルネットのよさ」を、今もきちんと継承できているのだろうか。

日々忙しさに紛れ、狭い視野の中で仕事をしてしまいがちですが、こうした先輩方にお会いすることで、ふと立ち止まり、大きな視野で自分の仕事を見つめなおすことができました。

創業以来の50年、途切れず繋いできたソルネットの「バトン」には、いろいろな人の想いが込められています。いつも私たちの背中を見守っていてくれる、たくさんの先輩方のあたたかい応援を胸に、また新たな挑戦に踏み出していきたいと思いました。(Y.Nishino)



編集後記

暑い夏を盛り上げてくれたオリンピック。選手の皆さんのガンバル姿に元気をもらいました。そして、たくさんの感動。その陰にある、たゆまぬ努力とチームへの信頼が大きな力になることを改めて学ばせて頂きました。辛くとも一歩一歩前に進み続けることが、自信へとつながっていくのです。これから始まるパラリンピックもとても楽しみです♪

(K.K)

